

「新たなシーズンの開幕を告げる新たな戦い」



新規格が増えてきた

今シーズンで6年目を迎えるK耐久/GT耐久東海シリーズが、30台の参加者を集めて、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

マシン改造規定は大きな変更はないが、新規格軽マシンが増えてきており、各クラスに大きな地殻変動が起こるのかが注目された。

KNNクラス(軽NAのノーマルクラス)

KNNではわずか1ポイント差でタイトルが決まるという、昨年激戦を演じた「ガレージシヤマトウディ」と「HAC もらいものビート」の争いにJKレーシングが割って入るのが見どころ。それらに対し着実に速さを増してきた新規格勢がどう挑むのかもみもの。

■予選

予選クラストップは昨年王者の#14「ガレージシヤマ TTS トウディ」、1' 10.517。2番手には#100「HAC もらいものビート」が1' 13.099が続き、昨年タイトルを争った2チームがまずは速さを見せた。

3番手は#35「JKレーシングユーロビート」が1' 13.256で、実力のあるところを見せ、以下#58「ガッツアルト with セシカ」1' 13.413、#444「team YKSR ALTO」1' 13.521、#717「Team Jatsun アルト」1' 14.093で、このあたりは僅差の争い、最後尾は#34「JK ガチャピントウディ」1' 23.547という予選結果となった。

■序盤

スタートから順調にラップを重ねるのは#14「ガレージシヤマ TTS トウディ」、2番手は#100「HAC もらいものビート」が1Lapで追い、まずは予選通り。以下#444「team YKSR ALTO」、#58「ガッツアルト with セシカ」、#35「JKレーシングユーロビート」、#717「Team Jatsun アルト」が1Lapの中に入り先頭を追っている。#34「JK ガチャピントウディ」は少し出遅れたか。

■中盤

1時間～1時間半を過ぎても上位勢は1Lap程度の差で接近戦を演じている。1時間半経過時のオーダーでは、#14「ガレージシヤマ TTS トウディ」61Lap、追い上げた#444「team YKSR ALTO」も同ラップ、#100「HAC もらいものビート」は60Lapとなっており、その後ろは#58「ガッツアルト with セシカ」も59Lapで続きこのあたりはどこが抜け出してもおかしくない。

以下は初参加#717「Team Jatsun アルト」も57Lapとまずまず、#35「JKレーシングユーロビート」55Lap、#34「JK ガチャピントウディ」は40Lapと伸びていないのが気がかり。



昨シーズンの王者がまず一勝をあげた



しっかりとポイントを獲得の#100

Race Report

■終盤

2時間経過時点では、#444「team YKSR ALTO」と#14「ガレージシヤマ TTS トウディ」が84Lap でならび、激しい先頭争い。#100「HAC もらいものビート」も82Lap、#58「ガッツアルト with セシカ」が81Lapと続き、どこが抜け出してもおかしくない展開。#717「Team Jatsun アルト」も79Lapとまずまず。#35「JKレーシングユーロビート」73Lap、#34「JK ガチャピントウディ」59Lapとスタートの躓きが痛い。しかしながら、残り1時間を切ってからが、耐久の本当の勝負どころともいえ、どのチームもゴールに向かって気を抜けない展開。

■最終結果

栄えある開幕戦を制したのは、#14「ガレージシヤマ TTS トウディ」。一時はトップを譲ったものの、終わってみれば2位に2Lap 差をつけての、盤石の勝利。今年もタイトル争いの本命と思わせるレース運びを見せた。

2位には#100「HAC もらいものビート」、こちらもタイトル争いの有力チームらしく、しっかりと2位を確保。今年もこの2チームがシリーズをけん引するのか。

3位表彰台は、#58「ガッツアルト with セシカ」。ポテンシャル的には厳しいとも言われる新規格軽ながら、予選4番手から3位表彰台と、着実にステップアップで自己最高位をマーク。今後の活躍次第では台風の目となるか。

4位は#717「Team Jatsun アルト」、こちらも新規格マシン。もう少しのタイムアップが望めれば上位争いにも十分入ってこられるので、こちらも注目。

5位は#34「JK ガチャピントウディ」、スタートの出遅れなどが響いた格好で、5位となった、次戦以降の巻き返しを期待したい、同じくは#35「JKレーシングユーロビート」で残念ながらリタイヤ、こちらも次戦以降のチャレンジを期待。

残念だったのは#444「team YKSR ALTO」、一時はトップを記録するなど、上位を走行したのだが、義務ピットイン回数不足のため章典外となってしまった。

■総評

結果だけ見ると、昨年のチャンピオン争いそのままの構図にもみえるが、新規格軽のポテンシャルアップなど、今後注目すべきポイントの多いレースとなった。さらに開幕戦には姿を見せなかった新規格軽は「カワセミブルーミニカ」チームなど有力マシンもあり、このままですんなりと、昨年同様のタイトル争いになるかは予断を許さない。



嬉しい初表彰台 #58



新規格勢が増えてきた #717



最後尾ながら完走 #34



残念ながらリタイヤ #35



#444 は章典外





ついに初優勝を飾った新規格軽！

KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

こちらも例年厳しい争いが展開されるクラスであるが、昨年は終盤に2連勝をあげた#25「アカミネコマル2トゥディ」が逆転で栄冠に輝いた。今年の開幕には#25「アカミネコマル2トゥディ」は出場したが、タイトルを争った「明智自動車トゥディ」は欠場なのが残念。現役高校生フォーミュラドライバー林周平選手を擁しての#3「周平ビートご声援ありがとう号」がエントリー。昨年の小暮選手などもそうだが、プロ・アマ、ベテラン・若手の垣根を越えて楽しめるシリーズに成長しつつある。

■予選

予選でトップを獲得したのは昨年王者の#25「アカミネコマル2トゥディ」、1'07.424。2番手には注目の#3「周平ビートご声援ありがとう号」が1'09.877で続き、注目チーム同士が10秒を切るタイムを記録。

3番手は今年からこのクラスに移ってきた#66「IMWトゥディ」が1'10.079と続く、昨シーズンはKTOクラス#666で開幕戦優勝の実績もあるチームだ。以下は#225「太陽セラぐっちち松本車体ビート」、オレンジの車体も鮮やかに1'10.7474、最終はただ一台の新規格軽#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」1'12.514となり全車決勝へとコマを進めた。

■序盤

スタート30分程度は、全車横一線。#25「アカミネコマル2トゥディ」を筆頭に#66「IMWトゥディ」、#3「周平ビートご声援ありがとう号」とほぼ同周回で展開する。動きがあったのはそのあと、#25「アカミネコマル2トゥディ」にトラブル発生で順位を大きく下げてしまう。昨年、一昨年を通じて1位か2位を獲得してきた#25がピンチに。

かわってするするとトップに上がったのは、最後尾スタートから追いつけた#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」。1時間経過時点では1Lap差ながら堂々の単独トップ。

■中盤

1時間半を過ぎると、トップ争いは#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」と#66「IMWトゥディ」がともに63Lapで並ぶ展開で、周回数も3位以下に4Lap差をつけた、どうやらこの2台に絞られてきたか。

とはいっても3位#225「太陽セラぐっちち松本車体ビート」、#3「周平ビートご声援ありがとう号」もレースあきらめたわけではない。トラブルから回復してきた#25「アカミネコマル2トゥディ」も55Lapとレースに復帰。

■終盤

2時間経過で#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は85Lapを周回、1Lap差で#66「IMWトゥディ」という状況は変わらず。この激しいトップ争いに#3「周平ビートご声援ありがとう号」が82Lapで続く、現役高校生という周平君のドライビングは、的確で、さすがカート〜ジュニアフォーミュラとステップアップしてきた実力を感じさせる。

以下は4位3位#225「太陽セラぐっちち松本車体ビート」81Lap、#25「アカミネコマル2トゥディ」も79Lapと追いつける。

残りは1時間、このままゴールに進むのか。



チームとしては1年ぶりの表彰台



こちらも嬉しい初表彰台

Race Report



■最終結果

3時間走っての栄冠を手にしたのは、#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」、嬉しい嬉しい初優勝！もちろんこのクラスで新規格軽が優勝するのも初！

2位は最後同Lapまで持ち込んで見せた#66「IMWトウディ」、こちらも前身のチームから考えると約1年ぶりの表彰台をマシンチェンジ・クラスチェンジの中獲得。

3位はビート同士の争いを制して、#225「太陽セラぐっち松本車体ビート」がすべりこみこれも嬉しい初表彰台。以下4位は惜しくも最後逆転された#3「周平ビートご声援ありがとう号」、トラブルから復帰して最後尾ながらしっかりと完走を果たした#25「アカミネコマル2トウディ」となった。



ビート対決となった#3

■総評

新旧規格混走のクラスの中で、ノーマルのポテンシャルからして厳しいとされていた新規格軽が初優勝を飾った、開幕戦。マシン自体は昨年から参戦している決してポピュラーとは言えない(失礼)エッセでの勝利は大きい。

また、現役高校生レーサーの周平君にも大きな拍手とともに、今後の活躍を願いたい、アマチュアスポーツからプロにそしてトップフォーミュラと・・・夢は大きい方がいいに決まってる、ガンバレ周平くん！



残念トラブルに見舞われた#25





見ごたえのあるバトルが展開された

「KNO」クラス（軽NAのオープンクラス）

このクラスは、昨年の上位 2 チームが開幕戦は不出場で、他のチームはポイント獲得のチャンス。特に昨年 2 位と同ポイントながら優勝がなかったため 3 位となった#23「チームミニトゥディ」、今年は悲願の初優勝を狙う。

■予選

予選クラストップはでタイムは 1'06.302、予選トップは自己最高位。2 番手には #38「デモリッションエグゼットゥディ」1'06.564、昨年のランキングは 5 位、3 番手は #23「チームミニトゥディ」1'06.597、注目の#23 は予選 3 番手からのスタート。この上位 3 台が 6 秒台を記録。

4 番手は#82「i TECHC ワコーズトゥディ」が 1'09.132、以下#102「ブラックジャックトゥディ」1'09.427 となった。注目の#54「豪 GO マイティワークス」だが、トラブルのため予選を走ることができずピットで作業を続けている。

■序盤

#910「CRAZY レーシングビート」がトップを走行、2 番手には#23「チームミニトゥディ」があがり、#82「i TECHC ワコーズトゥディ」も一つ上げ 4 番手、#38「デモリッションエグゼットゥディ」は 5 番手に後退という序盤の動き。#54「豪 GO マイティワークス」はピットスタートから走り出したものの、残念ながらリタイヤとなってしまった。旧車ででのレースは困難もつきものだが、完調なな勇姿をぜひ見たい。

■中盤

1 時間～1 時間半過ぎとなると、#23「チームミニトゥディ」がトップに立つ。それを #82「i TECHC ワコーズトゥディ」と#38「デモリッションエグゼットゥディ」が追い、第一集団を形成。4 位#102「ブラックジャックトゥディ」、5 位「CRAZY レーシングビート」が第 2 集団というようにグループ分けされてきた。ちなみに 5 位の#910 と #23 には黄旗追い越しのドライビングスルーペナルティが課せられている。集団内では差はなく、実力が拮抗している証ともいえる。

■終盤

2 時間すぎで、じわりじわり#82「i TECHC ワコーズトゥディ」が差を広げる。この時点で 88Lap は総合でも 3 位走行と健闘。2 番手は#38「デモリッションエグゼットゥディ」で 86Lap、3 番手は#23「チームミニトゥディ」で同じく 86Lap、4 番手#910「CRAZY レーシングビート」83Lap、5 番手#102「ブラックジャックトゥディ」82Lap。優勝は上位 3 チームに絞られたかには見えるが、まだまだ波乱は起きそうである。



予選トップは#910



嬉しい初優勝！！ #23



初代 Today もここまでイける #82

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

最後のスティントで逆転した#23「チームミニトゥディ」、そのまま 123Lap を走って開幕戦優勝！みごと悲願の初勝利を手にした。2位は#82「i TECHC ワコーズトゥディ」、敗れたといえ自己最高位を更新しての初表彰台！3位はこちらは自己最多タイながら昨年最終戦に続き連続表彰台と、幸先の良いシーズンインとなった。

119Lap まで挽回したのは予選トップからスタートした#910「CRAZYレーシングビート」、5位は#102「ブラックジャックトゥディ」で 113Lap だった。

#54「豪 GO マイティワークス」はスタート序盤でリタイヤ。

■総評

初優勝の#23「チームミニトゥディ」、レース中のベストラップもクラストップを記録し、ほぼパーフェクトな勝利。昨年逃したタイトルに向かってまずは大きな一歩をマークした。その他上位勢もほぼ実力的に差はなく、このクラスにおいても僅差の戦いになった。#82「i TECHC ワコーズトゥディ」もいつ勝ってもおかしくない走りでも自己最高位を Get するなど各チームの力は拮抗している。

今後昨年上位のチームが出てきても高いレベルの争いが展開されるに違いない。

残念なのは#54「豪 GO マイティワークス」、走っている姿も個性的な昭和の名車。もう少し見たかった、次回チャレンジをぜひお待ちしております。



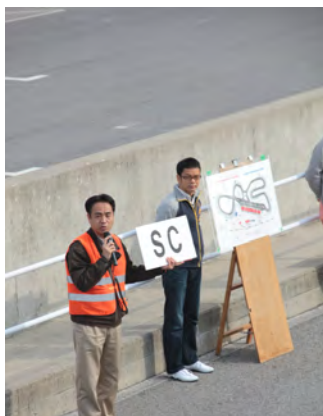
しっかりとポイント獲得 #38



少し上位には絡めなかった #102



もう少し見たかった #54



シーズンインの緊張感が漂う



「KTC」クラス（軽過給器のクローズドクラス）

アルトワークスとカプチーノという車種が主流を占める過給機クラスのなかにあつて、このクラスの注目は S/C 搭載のヴィヴィオ、年間タイトル経験のある「MRTm Zammers ヴィヴィオ」を中心に、自分たちの好きなクルマで楽しむというアマチュアレースならではの楽しみだ、ヴィヴィオの夢はもちろんタイトル奪還。

■予選

予選ではその#392「Zammers ヴィヴィオ」が 1' 06.624 でトップを獲得、幸先良いスタートとなるか。予選 2 番手は#93「藤枝マリンダイビングアルト」1' 06.849 で横につける。3 番手は#133「SIT カプチーノ」1' 08.668、4 番手#112「白須賀会カプチーノ」1' 09.426、ここはカプチーノが続く。

5 番手#7「ナルミファクトリーアルト 2 号車」1' 10.583、ツインカムじゃないワークスで健闘。予選 6 位に#4「JTEKT シルバーコペン」1' 10.601 で全車決勝へとコマを進めた。

■序盤

スタートから 30 分は順位に変動なく周回を重ねる。表面的には落ち着いたレースだが、その裏ではピットタイミングなど駆け引きが行われているに違いない。1 時間 53Lap 経過すると、トップ#392「Zammers ヴィヴィオ」を追うのは#7「ナルミファクトリーアルト 2 号車」51Lap となる。#7 はシングルカム F6A を搭載するモデルでパワー的には少々不利なのをおしのけて 2 位走行は立派、さすがはベテランチーム。3 位は#112「白須賀会カプチーノ」でこちらも経験豊富なチーム。4 番手は#4「JTEKT シルバーコペン」、49Lap、5 番手#93「藤枝マリンダイビングアルト」48Lap、6 番手は#133「SIT カプチーノ」48Lap となっている。

■中盤

1 時間半過ぎとなると、各チームの Gap はぐとつまってくる。順位的には、30 分前と同じオーダーながらトップの#392「Zammers ヴィヴィオ」から 6 番手は#133「SIT カプチーノ」までの差は 4Lap ほど、特に 2 位#7「ナルミファクトリーアルト 2 号車」から#4「JTEKT シルバーコペン」は同ラップのまさに接戦、激戦。実にドキドキ・ワクワクの展開でこれぞレース。平成元年付近のマシンから 21 世紀のマシンまでが楽しく走っている。

■終盤

2 時間すぎでも接戦は続いている、トップは相変わらず#392「Zammers ヴィヴィオ」。それを追う、#93「藤枝マリンダイビングアルト」と#112「白須賀会カプチーノ」、#133「SIT カプチーノ」、#7「ナルミファクトリーアルト 2 号車」が 1Lap のなかにひしめき、トップへの挑戦権を争う格好だ。#4「JTEKT シルバーコペン」は少し遅れたのは気になる。だが、まだまだ最後のステイントを残しており、一波乱あるのか。



カプチーノも人気の車種だ



VIVIO は個性派 結果は？



#93 は予選 2 位からスタート



初参加 #133



こちらはベテラン #112 昨年以来の表彰台



パワー不足ながら健闘 #7

まで接近した展開が続いたが、#392「Zammers ヴィヴィオ」がトップを守り切ってGOAL！ ヴィヴィオは2011年2012年と開幕戦3連勝で”開幕男”となった。2位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、こちらも嬉しい初表彰台で自己最高位。3位には#112「白須賀会カプチーノ」で優勝した昨年第3戦以来の表彰台となった。4位は#7「ナルミファクトリーアルト2号車」、表彰台にはあと1Lap及ばず。しかしながら健闘をたたえたい、5位は#133「SITカプチーノ」、初参加ながら高いレベルでの競り合いでその実力を見せてくれた。

■総評

このクラスも非常に接近した争いがみられた。レース中のベストタイムも6秒から7秒台と接近し、ピットワークを含めて各チームの実力も伯仲といえる。車種的には平成初期のアルトワークスから最新式のコペン、FRのカプチーノやなにより優勝したヴィヴィオといったバラエティに富んだマシンたちが開幕から、躍動した。今年も混戦のシーズンが始まったことを実感させられる開幕戦となった。



今後は増えてきそうなコペン



優勝よりも嬉しい！？ オイル！ #392



早速の直接対決

「KTO」クラス（軽過給器のオープンクラス）

このクラスは、総合優勝も狙えるレースの華。昨年3勝をあげた王者の#210「ZEST ルブロスアルト」に、昨年の最終戦で悲願の初優勝を飾った#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」がどう向かっていくかが開幕戦の見どころ。

■予選

予選クラストップ、全体のPPも獲得したのは#210「ZEST ルブロスアルト」でタイムは1'03.618、さすがの速さを見せる。同じフロントローには#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」が1'04.440でならび早くも直接対決。3番グリッドには昨年のランキング2位#8「DXL グローバルカプチーノ」、1'04.607、その横には初参加マシンの#251「MDR スーパーカプチーノ」1'04.610でセカンドローはカプチーノ対決。予選5番手は昨年のマシントラブルから復活してきた、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」1'06.534、今年こそ悲願の初優勝に手が届くか。予選6番手は#86「行革アルト2号機」1'06.534という結果。総合のセカンドローまではKTOクラスで占めすべて4秒台以上という、こちらも実力伯仲の戦いが予想される。

■序盤

序盤は#210「ZEST ルブロスアルト」がレースを引っ張る。とはいうものの2位#251MDR スーパーカプチーノ、3位#777「ナルミファクトリーアルト1号車」、4位#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」までぴったり追走。そのあとに#8「DXL グローバルカプチーノ」だが、#86「行革アルト2号機」はトラブルなのか周回数が伸びてこない。この状態は少しずつ順位を入れ替えながらも続いていく。

■中盤

1時間～1時間半過ぎとなると、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」がトップに立ち、後続に1Lapの差をつけ始める。#777「ナルミファクトリーアルト1号車」と#210「ZEST ルブロスアルト」が2位争い。3位は#251MDR スーパーカプチーノ、#251は黄旗追い越しのドライビングスルーペナルティを受けている。#8「DXL グローバルカプチーノ」だが、トラブルに巻き込まれたようでピットに帰ってくる。#86「行革アルト2号機」はピットアウト～コースイン時のホワイトラインカットのためペナルティを受けたが、#86はこのあと3度ほど同ようなペナルティを受けている。同じ違反を繰り返すことは好ましくないため、他の参加者も気を付けてほしい。

■終盤

2時間経過時点では、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」が91Lapでトップを守り、2位争いから抜け出した#210「ZEST ルブロスアルト」が1Lapで続く展開、3位#777「ナルミファクトリーアルト1号車」は86Lapと一歩後退か。しかしすぐ後ろに85Lapで#251MDR スーパーカプチーノ」が迫っており、表彰台をかけた争いは予断を許さない。序盤からの不調が響いた#86「行革アルト2号機」は65Lapとなかなか周回数が伸びてこない。また#8「DXL グローバルカプチーノ」だが45Lap走ったところでレースを終えている。



昨年から見事連勝 #32



こちらは惜しい2位 #210



復活の表彰台 #777

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

レース終盤#210「ZEST ルブロスアルト」が猛追、とうとう一周回まで追い込む。義務ピットが閉鎖されたレース終了30分前には、2台の差は約30秒、コース半周という僅差にまで接近する、レース中のラップタイムは#210の方が速い...

と最後まで緊迫したレースをしめたのは、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」！約30秒前後のGapをコントロールし逃げ切り開幕戦勝利！！昨年の初勝利が自信につながったか終始安定したレース運びを見せた。

2位は#210「ZEST ルブロスアルト」、最後惜しかったが王者らしい速さを見せた。最後表彰台の一角を占めたのは、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」、久々の”1号車”で復活の表彰台！

4位は#251MDR スーパーカプチャーノ」で初参加マシンながら、レース中の最速Lapは3秒台に入れるなど随所に速さを見せた。5位は#86「行革アルト2号機」序盤の不調とペナルティあったが、しっかりと完走して見せた。

■総評

昨年の最終戦から連勝となった#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」、勝ち方を覚えたか、終始安定した走りでもっとトップを守り切った。マシンのにも安定してきているので大崩はなさそうだ、とすれば今シーズンはミニカのシーズンになるかも。

だが、他の実力チームも黙っていない、#210「ZEST ルブロスアルト」はさすがの速さと強さがあり、復活してきた#777「ナルミファクトリーアルト1号車」など混戦が予想される。



速さは印象的 #251



ペナルティの多さは気になる #86



復活が待たれる #8

